

2024-25年度 上田ロータリークラブ

- 会長 金子 良夫 ● 副会長 柳澤 雄次郎・三井 英和
- 幹事 酒巻 弘 ● 会報委員長 小林 浩太郎

第2967回例会 (令和6年12月9日)



ホームページQR

[会長挨拶]

金子 良夫 会長

師走になり、何かと気ぜわしい季節となりました。寒さも一段と厳しくなり、体調を崩さぬようご自愛ください。



さて、入会予定者がおります。先ほど理事会のご承認をいただきましたので、例会中に、皆様のボックスに新入会員予定者のカードを入れさせていただきました。例会終了後、必ず確認をお願いいたします。

先週もお話ししましたが、東近江クラブでは、毎月、新入会員を入れていると言うことです。先日の訪問で東近江での入会勧誘の情熱に感化されてしまいました。

当クラブは、会員個々の集まりでしかありません。クラブを発展させるも、衰退させるも、ひとえにメンバー集めが原動力となります。今年は例会中に新入会員候補者を皆で持ち寄るという作業をしていますが、よい候補者がいましたら、どうぞお知らせください。ぜひご紹介をお願いします。

先日の理事会でご審議いただきまして、12月21日(土)、当クラブクリスマス会開催前の昼間、午後1時から原峠保養園を再訪しまして、こどもたちにケーキとお菓子のプレゼントを贈ることにしました。

9月のパーベキュー大会のあと、こどもたち一人一人にお菓子袋をプレゼントしました。その時のこどもたちのうれしそうな顔が忘れられません。聞きますと、日頃、こどもたちは普通の市販のお菓子を与えられることがないそうです。あの時ももうと、小さい体で袋を抱きかかえ、すぐに先生に渡してお菓子袋に名前を書いてもらったそうです。今回、保養園からは、やはり菓子袋とケーキを要望されました。

短い時間での訪問になりますが、先日のパーベキュー大会に参加できなかった方、また園を再訪したいと思う方は、私か幹事にお声がけをお願いします。サンタクロースの衣装も用意いたします。ぜひ一緒に行きましょう。こどもたちの笑顔を見て「ロータリーのマジック」を感じてください。

[会員卓話]

国際奉仕委員会 田邊 利江子 委員長

ポリオ根絶は『ロータリーの最優先項目』であり、『世界中の子ども達へのロータリーの約束』です。



01. ポリオという病気について

- ・急性灰白髄炎と言われ、非常に感染性の高い病気です。
- ・ポリオウイルスは人から人へ感染し、最も多いのは汚染水を通じた感染です。
- ・ポリオの発症の初期症状は、かぜに似た症状で、発熱、頭痛、のどの痛み、吐き気、嘔吐など。
- ・これらの症状は、ウイルスに感染してから3～5日後に現れます。
- ・感染しても90～95%の人は症状が現れず、知らないうちに免疫ができています。
- ・発症した場合の症状は、ウイルスが神経組織に入って麻痺を引き起こします。
- ・麻痺は一生残ってしまう可能性があります。
- ・身体麻痺を引き起こす割合は、200人に1人程度です。
- ・5歳以下の子どもの感染確率が高いです。
- ・成人が感染することもあります。小児患者が多いことから、ポリオは小児麻痺とも呼ばれています。
- ・治療法はありませんが、安全なワクチンで予防が可能です。

02. ポリオの歴史について

ポリオはワクチンが開発されるまで世界各地で流行していました。

また、ポリオは古くから人類に存在していた感染症であったと考えられています。古代エジプトの壁画や、縄文時代の人骨などにも、ポリオの症状の特徴がみられるといわれています。

ポリオ流行の記載は18世紀頃からみられ、1950年代までは、しばしば世界各地で流行しました。その後、不活化ワクチンや生ポリオワクチンが開発され、定期接種されることに

より、多くの国でポリオ患者は激減しました。

WHOは、西暦2000年までに世界からポリオを根絶する計画をたて、地域流行のある国を中心にして、ポリオワクチンの定期接種を推進し、さらには、高危険地域では家庭訪問によるワクチン接種の徹底を行ってきました。

2024年現在、「ポリオ根絶」に向けて取り組んでいるところです。今日、ポリオがまだ存在する国(常在国)はアフガニスタンとパキスタンのみとなっています。

日本におけるポリオは、1940年代頃から全国各地で流行がみられ、1960年には北海道を中心に5,000名以上の患者が発生し、大流行になりました。

そのため1961年に、生ポリオワクチンを緊急輸入し、一斉に投与することによって流行は急速に終息しました。

国産の生ポリオワクチンが認可され、1963年から定期接種が行われましたが、生ポリオワクチンは、ごくまれにワクチン由来の麻痺を生じるため、2012年から不活化ポリオワクチンの定期接種にかわりました。

03. ポリオ根絶にむけた、ロータリーの取り組み

◆1979年

フィリピンの子どものために5年計画でポリオの予防接種を開始(1980年 天然痘の世界根絶宣言がWHOから発表されています。)

◆1985年

国際ロータリー創始80周年に当たって、「ポリオプラス・プログラム」を発足

※プラスとは、はしか、ジフテリア、破傷風、百日咳、結核の5つの病気を指しています。

ポリオだけでなく、これらの病気も含め予防接種を実施することになり、「ポリオ撲滅活動」から「ポリオ・プラス・プログラム」と改称されています。「プラス」にはすべての感染症根絶の願いが込められています。

◆1988年

世界ポリオ根絶推進計画(GPEI)設立

※世界保健総会で、国際ロータリーが世界ポリオ根絶推進計画を提案して、4つのコアメンバーで、「世界ポリオ根絶推進計画」がスタートしました。

①国際ロータリー(RI)

「アドボカシー担当」ポリオの認識向上、募金、政府などへ働きかけ

②世界保健機関(WHO)「戦略担当」GPEIの運営と管理

③国連児童基金(UNICEF)

「予防接種担当」ワクチンの購入と分配

④米国疾病対策センター(CDC)

「ウイルス対策担当」ウイルスの種類と感染源を特定

その後


⑤2009年 ビル&メリンダ・ゲイツ財団(BMGF)が参加

「リソース担当」で民間団体として最も多額を寄付

⑥2019年 ワクチンと予防接種のための世界同盟(GAVI)参加

★現在は6つのコアメンバーで「世界ポリオ根絶推進計画」が進められています★

04. 野生型ポリオウイルスによる症例



	1988	2021	2022	2023	2024
国	125	3	3	2	
症例数	350000	6	30	12	

2024年 症例の検出が報告されています

05. 伝播型ワクチン由来ポリオウイルスによる症例

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
cVDPV1	3	0	27	12	35	17	193	133	
cVDPV2	2	96	71	366	1082	685	689	373	
cVDPV3	0	0	7	0	0	0	1	0	

2024年 症例の検出が報告されています

※伝播型ワクチン由来ポリオウイルスは、経口ポリオワクチンに含まれていたポリオウイルス株が変異したもので

06. 2022-2023 年度ロータリー財団支出(支援) (3億4400万ドル)

項目	支出
ポリオプラス	1億5700万ドル
グローバル補助金	5500万ドル
地区補助金	2600万ドル
その他補助金	2000万ドル
プログラム運営費	2200万ドル
寄付推進費	2500万ドル
一般管理運営費	1700万ドル

ロータリー財団は、ポリオプラスに、1億5,700万ドルの支援を行っております。
- 内訳 -
ビル&メリンダ・ゲイツ財団 1億ドル支援
ロータリアン 5,700万ドル支援
国際ロータリーとしては最優先のプログラムとなっていますので、他の補助金に比べると、多額の金額が、「世界ポリオ根絶推進計画」の活動の支援に使われています。

07. これまでの、ポリオプラス基金の寄附の総額

ロータリアンからの寄附 9億8,800万ドル

ビル&メリンダ・ゲイツ財団からの寄附 12億9,500万ドル

この寄附が使われている先は

- ・ユニセフ 10億3,900万ドル
- ・WHO 13億4,800万ドル

ユニセフ、WHOを通じて「ポリオ根絶推進活動」を進めている、支援しています。

08. ポリオ根絶に向けてのタイムライン

根絶するには、3年間検出がないことが条件になります。計画では2023年が、最後の検出の報告の年にならないといけないのですが、2024年にも検出の報告がありましたので、結果として、残念ながら2026年の根絶は出来なくなってしまっております。

09. ポリオ根絶にむけた取り組み (2022~2026年の5年間の計画)



・ワクチン接種 (年間3億7000万人の子どもたちに対して)



・監視活動 (50か国でポリオやその他の病気にに対して)



48億米ドル ※100%の予算の確保はできていません。
<https://polioeradication.org/>

年間3億7000万人の子供にワクチン接種をする理由には、世界の人口増加が関係

80億人の未来

順位	2022年人口		2050年人口		
	国	人口	国	人口	
1	中国	14億9千	1	インド	16億7千
2	インド	14億2千	2	中国	14億1千
3	アメリカ	3億4千	3	ナイジェリア	3億9千
4	インドネシア	2億9千	4	アメリカ	3億8千
5	パキスタン	2億4千	5	パキスタン	3億7千
6	ナイジェリア	2億2千	6	インドネシア	3億2千
7	ブラジル	2億2千	7	ブラジル	2億3千
8	ハンガリー	1億7千	8	コンゴ民主	2億2千
9	ロシア	1億4千	9	エチオピア	2億1千
10	メキシコ	1億3千	10	ハンガリー	2億

世界では、2010年から2022年の12年間で10億人の人口が増加
2022年から2050年には、97億人になるといわれています。

「ナイジェリアですべての子どもに定期的な予防接種を実施することが引き続き課題である」



国連のデータ 朝日新聞 2022年11月16日

- ・急性弛緩性麻痺がポリオウイルスによるものかチェック
- ・92カ国の146のWHO認定ポリオ研究所で構成
- ・野生型ポリオウイルスかワクチン由来のポリオウイルスかをスクリーニング
- ・ゲノム解析することで、どのように広がっているかを監視
- ・220,000以上の便サンプルと、年間8,000以上の下水サンプルを処理



<https://polioeradication.org/polio-today/polio-now/surveillance-indicators/the-global-polio-laboratory-network-gln/>

監視活動とは、例えば、麻痺の子供が確認されたとき、ポリオによるものなのかを判定をしないといけません。便などの採取によって検査をする機関が必要です。かなり手間のかかる作業、検査をしています。

11. 日本WHO協会より

2024年11月「ガザに思いを馳せて、平和と健康を考える」から抜粋しています。

ユニセフの分析によれば、2023年にポリオ感染した小児は世界全体で541人であり、その85%は紛争被災国あるいは脆弱な国(たとえば、アフガニスタン、コンゴ民主共和国、ソマリア、南スーダン、イエメンなど)で生じていました。

世界中で、ポリオの野生株の患者が見つかっているのはアフガニスタンとパキスタンです。しかし、紛争や自然災害、人道危機などにより、多くの国々で医療システムの崩壊、水や衛生設備のインフラの破壊などにより、ワクチン由来のポリオウイルスによる再流行を招いています。

世界保健機関(WHO)も、ファクトシートにおいて「感染した子どもが一人でもいるかぎり、全ての国の子どもたちにポリオ罹患のリスクがあります。最後に残った国からポリオを根絶できなければ、世界的にポリオが再流行する可能性があります。」

パレスチナ自治区のガザにおいて、ポリオ患者が発生し、2024年9月から10歳未満の子どもにポリオワクチンの一斉投与が始まりました。そのきっかけになったのが、下水疫学検査でワクチン由来の2型ポリオウイルスが見つかったことでした。そして、1人の患者が出たことを契機に、国際社会が停戦を要求し、予防接種の一斉投与が実施されました。

場所によっては、身の危険を感じながら、ワクチン接種の活動が行われています。第1ラウンドは無事に56万人の子どもたちに接種できたのですが、第2ラウンドでは接種会場に指定されていた医療施設が爆撃され、子どもたちにも負傷者が出たとのニュースに衝撃を受けています。

12. ポリオ根絶する5つの理由

1. 人びとの生活を改善

ポリオ根絶活動のおかげで、身体麻痺にならずにすんだ人の数は1900万人、命を落とすことになかった人の数は150万人に上ります。

2. 未来への投資

ポリオが根絶されなければ、今後10年間に、毎年20万人の子どもが身体麻痺になる可能性があります。ポリオの根絶は、すべての子どものために、より健康な世界をつくることです。

3. 子どもの健康を向上

ポリオ根絶のサーベイランス(監視)や予防接種活動では、ビタミン欠乏や、はしかといったほかの健康問題の検査も行われるため、いち早く対応できます。

4. 医療費の削減

世界的なポリオ根絶活動により、1988年以来すでに、270億ドルの医療費が節約されています。2050年までに、さらに140億ドルが節約されると予測されています。

5. 歴史をつくる

ポリオが世界から根絶されれば、天然痘に続いて2番目に根絶される疾病となり、歴史上で最も偉大な公共保健での達成の一つとなります。

「ポリオ」という病名は、私がロータリーに入会してから病名の名前を知りました。なので最初はどんな病気なのかわからなかったのですが、「小児麻痺」と聞いてどんな病気をかを知ることになりました。実は私の伯母が3歳のときに小児麻痺にかかってしまい発症しております。

伯母は父のお姉さんになります。父方の甥っ子、姪っ子たちは比較的「何々ちゃん」というふうにな前で呼ぶことが多くて、この小児麻痺にかかってしまった伯母はみんなから「みっちゃん」と呼ばれています。

みっちゃんは小児麻痺を3歳で発症してしまっております。当時は、はじめ風邪と診断されていましたが、アメリカ帰りのお医者さんに診てもらって、小児麻痺とわかったそうです。

また近所では、小児麻痺で亡くなってしまった子供さんもいたようです。不自由な状態でしたので、小学校には数カ月しか行けませんでした。その後は、ずっと家の中で生活をしていました。そして両親からはとても大事にされていたようです。また当時は外国から仕入れた高い薬を処方してもらっていたようです。

現在みっちゃんは87歳になります。そして今は施設にいます。施設の人によくしてもらっているようで、施設に入ることによっていろんな方と接したりお話をすることができたのが良かったのか、施設に入る前より元気になっています。そして施設では「天使」と呼ばれているようです。笑顔が素敵なのだと思います。今が幸せであることは大切なことなのですが、ワクチンがあれば、そして接種していれば、そして小児麻痺にかかっていなければ、学校に行ってお友達と遊んで勉強して、もっともっと違う別の人生があったのかなと思います。

個人的にもポリオ発症を防ぐために、ワクチン接種はとても大切な活動とっております。子供たちが安心できる未来のために、ポリオのない世界を現実のものとするために、ロータリアンは、ポリオプラス基金へ年間1人30ドルの寄付をしております。

会員の皆様は根絶に向けて毎年支援活動をしていただいております。ロータリークラブはこのような素晴らしい活動しております。ポリオ根絶に向けて引き続き皆様のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。

[幹事報告]

酒巻 弘 幹事

1. 地区事務所

疾病予防と治療月間 リソースの
ご案内



2. 例会変更

- 上田東RC 12月18日(水) 定受なし
- 12月25日(水) 定受なし
- 令和7年1月1日(水) 定受なし
- 1月15日(水) 定受なし
- 長野RC 12月17日(火) 定受なし
- 12月31日(火) 定受なし
- 令和7年1月7日(火) 定受なし
- 2月11日(火) 定受なし
- 2月25日(火) 定受なし
- 1月14日(火) 定受あり
- 上田西RC 12月19日(木) 定受なし
- 12月26日(木) 定受なし
- 令和7年1月2日(木) 定受なし
- 1月9日(木) 定受なし
- 1月16日(木) 定受なし
- 1月30日(木) 定受なし

※12月26日から令和7年1月5日まで事務局はお休み
いたします。

[ニコニコBOX]

田中 克明 委員長

- 飯島幸宏さん 石井懋人さん 出田
行徳さん 伊藤典夫さん 内河利夫さん
- 小熊直人さん 小幡晃大さん 金子
良夫さん 上島孝雄さん 柄澤章司さん
- 北村修一さん 窪田秀徳さん 桑澤俊恵さん 桑原茂実さん
- 小山宏幸さん 酒井喜雄さん 酒巻弘さん 佐藤倫さん
- 滋野眞さん 島田太一さん 春原宏紀さん 関啓治さん
- 関勇治さん 田中克明さん 田邊利江子さん 土屋勝浩さん
- 藤森幸路さん 布施修一郎さん 保科茂久さん 三井
英和さん 矢島康夫さん 柳澤日出男さん 柳澤雄次郎さん
- 横沢泰男さん



本日喜投額 34名 ￥37,000
累計 ￥883,500

[例会の記録]

司会：保科 茂久 会場・出席委員長

斉唱：ロータリーソング

●会長挨拶 ●幹事報告

●会員卓話 国際奉仕委員会 田邊 利江子 委員長

[ラッキー賞]

土屋 陽一さん

(滋野 眞さんより 雪中梅)



[出席報告]

保科 茂久 委員長



	本日	前々回 (11/25)
会員数	52	52
出席ベース	52	50
出席者数	43 コロナ欠席0	39
出席免除(b) ()内は出席者数	4(4)	4(2)
メイクアップ ()内はMake up後		3(42) コロナ欠席1
出席率	82.69	86.00

[次回例会予定]

12月23日(月) 会員卓話 木本 昂さん

(12月9日発行)

【会報担当】 小林 浩太郎 会報委員長

第8回 出前講座

MANABI外語学院



今年開催8回目となります出前講座が
12月に行われました。

織 英子さん、田邊利江子さんに講師を
お願いしてMANABI外語学院の留学生に
向けてお話しをしていただきました。

職業奉仕委員長 飯島幸宏